

コジマ 小島 能美郡板津郷に屬する部落。
コジマ 小島 鹿島郡矢田郷に屬する部落。
古へこの附近が入江で、今の妙観院の地が小島嶼であつたから、その名を得たといふ。

コジマ 小島 鹿島郡能登島なる曲の部落
北方にある島。

コジマカケノリ 兒島景范 通稱平十郎・平兵衛。字は宋文。天勸又は常耕齋と號する。江都の人にして木下順庵に學んだ。正徳四年前田綱紀に召されて御儒者となり、祿二百石を受け、組外に班し、享保四年更に百石を増した。人となり遜讓、詩文數百篇に上つたが、一朝悉く之を焼いた。著す所眞珠船・北行前後集及び兒島景范集があり、書も亦奇古愛すべきものがある。享保十年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

コジマガハ 小島川 鹿島郡藤橋領で、拾越川が二流となり、その本川を馬出川、枝川を小島川と名づける。小島川の流程五〇〇米許。

コジマシユンチヨウ 小島春晷 大聖寺の人。通稱與左衛門。谷文晁の門に學んで書を善くした。安政二年七月十一日歿。

コジマソウチヨク 小島宗直 胃工。通稱安太郎。兒島宗英の甥。弘化二年武具藏附足輕となり、四年横目足輕に進み、七年甲冑製造の技に精しきを以て細工所履を命ぜられたが、慶應四年に歿した。宗英の二子爲三郎致將又は宗將その後を受け、文久・慶應の際前田齊泰・慶應の甲冑を製した。

コジマソウエイ 兒島宗英 胃工。通稱安右衛門。明珍宗好に技を學び、弘化三年三人扶持を給せられた。その技精良、嘗て百二十

間の筋兜を製した。嘉永四年歿し、子金七又は安右衛門宗孝繼ぎ、亦良工であつた。慶應元年歿。

コジマブンキ 小島文器 金澤の俳人。通稱吉三郎。文左衛門。吉二、後に爲善。俳名初め晚菴。明治七年大夢の後を受けて南無庵を稱し、廿六年四月十九日七十七歳を以て歿。

ゴシヤ 五社 金澤に於ける神社の中別當又は社僧の奉仕しないで、神主の守護するものは泉野神明・鍛冶八幡・田井天神・卯辰八幡及び郊外山上春日社のみであつた。これを五社というた。

ゴシヤゴンゲン 五社權現 ↓イスルギヒ
ゴシヤンジャ 伊須流岐比古神社。
コシユウエキケイカイリヤク 古周易經解略 四冊。奥村尙寬著。著作年代不詳。周易經文の略解で、著者がその師新井白娥の著した古易断に據り、併せて注疏の説、宋程頤の傳、朱熹の本義、清康熙帝の折中及び日講易經解義、乾隆帝の周易述義の説を採り、傍ら歷代儒家及び自家の意見を交へて述作したものである。

ゴジユウタニ 五十谷 能美郡輕海郷に屬する部落。
ゴジユウタニ 五十谷 能美郡牛首(今白峰)の内の小字。

ゴジユウニシタミ 五十人組 先簡足輕大屋彦太郎由緒に、前田利家が越前府中で鐵炮之者五十人外に小頭五人を召抱へ、小塚藤右衛門へ預けられた時、元祖九郎右衛門がその小頭を勤めたとある。五十人組と稱する足輕は即ち是で、三社五十人町・石坂五十人町などいふものはその組地であつたのであらう。

ゴジユツケンナガヤ 五十間長屋 金澤城内、橋爪門の續き表式盡前に在つた長屋で、倉庫の用に供したものである。

ゴシユテン 御守殿 將軍の女が諸侯に嫁したものをいふ。前田氏では徳川秀忠の女利常夫人、家光の養女光高夫人、並びに綱吉の養女吉徳夫人は皆御守殿である。又齊泰の夫人は徳川家齊の女であつたが、幕府は初め輕易を宗として御住居と稱せしめ、齊泰の中納言に降つた翌年に至つて、御守殿の稱を興へた。

ゴシヨ 御所 河北郡小坂庄に屬する部落。寶永誌に、村の上に二條の御所として屋敷跡があると記する。この地は延元の頃加賀國司二條師基の居た所であると傳へる。

コシヨウ 小將 加賀藩に於いては御大小將・御表小將・御與小將等の職名がある。小將は小姓の義で、御與小將は子小姓(又は小々姓)を延寶五年に改めたもの、御大小將は御小姓の名がいつの頃からか改つたもの、御表小將は元祿十年の創設である。然れば小姓の文字を小將としたのも前田綱紀の時からであらうと思はれるが、そのけじめが不明であるから子小將又は小々將とも書かれてゐる。

コシヨウガシラ 小將頭 御小將頭は御大小將の組頭である。文祿中に脇田主水・北村八兵衛、慶長中に恒川監物齊而が勤めたが、その後の姓名は不明である。元和より以後に至つては杉江兵助・萬巻半人昌俊・丹羽織部孝延・森權太夫祐知・北川久兵衛等が之を勤め、寛永年中役料二百石を賜はつた。延寶五年三月二日列を御馬廻の次と定められ、淺井源石衛門政知・神尾數馬直武・野村與三兵衛重徳・

坂井與右衛門直往・九里覺右衛門正長は御馬廻頭に轉役して尙當職を兼帶し、半田五郎左衛門元知のみは故の如く當職を勤めた。同月十三日平岡五左衛門親仍・青木主計正清に命ぜられ、天和二年九月二十六日淺井政知等五人共兼帶を免ぜられて、藤田平兵衛安勝・永井傳七郎正良・津田求馬義辰・山崎半左衛門延隆之に代り、外に半田元智・平岡親仍を加へて六人となつた。同月廿九日大小將を六組に定められて役料二百石、一組は組頭一人、御番頭一人、御横目一人、大小將廿五人とし、他に役掛の者は數の外と定めた。此の時までは頭六人が協同して一統を支配するのであつた。同年十二月六日隨取を以て六番の順序を定め、一番永井正良、二番山崎延隆、三番藤田安勝、四番半田元智、五番平岡親仍、六番津田親辰となつた。爾後連續する。

コシヨウガツ 小正月 藩政の時、一月十五日をいうた。今農家で二月十五日をさしていふものがある。この日を以て新年遊樂の終りとし、早朝に左義長を行つた。

コシヨウグミ 小將組 ↓ヘイシ 平士。
コシヨウセキズ 古城跡圖 第一に加越能古城址通覽圖は、領内三州の略圖に古城跡ある地點を朱の線にて現せる一葉の小圖である。第二に有澤氏の古城圖は、享保年中に製したもので數葉ある。第三に富田景周の圖した三州故城圖は百餘張ある。第四に津田鳳脚の圖せるものも數葉ある。此の外好事家の圖せるもの甚だ多く、何れも種々の異同がある。

コシヨウセキトリシラベシヨ 古城跡取調書 元祿・寶永・享保・寶曆・文化・文政に郡奉